読売歌壇

小池　光　選

そのむかし白馬に乗りて来し夫を思ひ出しつつ介護に励む　横浜市　皆上　洋子

【評】夫君の介護をしている。その昔、白馬に乗ってきた彼であった。そのころを昨日のことのように思いつつ、つらい日々の介護を果たす。人生の奥行きを感ずる。

三島忌が近づいてきたわが持てる『潮騒』八十七刷古ぶ　鳥取県　表　いさお

【評】三島由紀夫の壮絶な最後は1970年の晩秋であった。青春文学の傑作『潮騒』。文庫本になって読まれて作者の手元にあるのは八十七刷である。夢中に読んだあの頃よ。

故郷を聞かれていつも答えてる『砂の器』に出てくる亀嵩　大東市　若槻　豊彦

【評】松本清張の名作。カメダケの地名が重要なポイントになっている。偶然にもわがふるさとであった。なつかしい。

あかあかと輝きやまぬ夕陽見る義姉の葬りのあとの車窓に　和歌山県　助野貴美子

書き取りで若という字を苦と書いて何故だか○をもらったあの子　横須賀市　笠原　隆司

スマホ手にながら飯する若き等は知っているのか餓死あるこの世　木津川市　島野　秀子

改札口出るとお宿の旗を持ち客引きをする昭和もあった　守谷市　久保田洋二

思い出はみかん畑でお弁当「ひるのいこい」をかあちゃんときく　相模原市　井上　桂

名を呼ばれ生徒のごとく「はい」と言う老人ばかりの待合室で　狭山市　奥薗　道昭

哀しみを抱え暮らしてきたけれど…ホットミルクを一本買った　鳴門市　楠井　花乃

栗木　京子　選

スカーフを並べて選ぶ秋の朝リハビリだけの外出なのに　入間市　飯島三枝子

【評】リハビリのためであっても、外出の準備をしていると気分が浮き立つ。秋にふさわしい色彩や肌ざわりのスカーフを選ぶひとときき。「スカーフを並べて」が素敵だ。

バス降りていつもしんがりのろのろと凡ての道は我が家に至る　横浜市　高原　信子

【評】最後尾をゆっくりと歩くのは気持ちに余裕のある証と言える。凡ての道がローマならぬ「我が家」に通じていると思えば心強くなる。「しんがり」という表現が趣深い。

歯に衣を着せぬ代りに和服着てダンディ北の富士は明解　横須賀市　斉藤　明久

【評】元横綱の北の富士氏が逝去。歯切れよい発言とお洒落な姿で解説者としても人気を集めた。大相撲の中継が寂しくなる。

さりげなく昨夜の献立夫に訊く即答する日も考え込む日も　津山市　横林　明美

球児らは人差し指で天をさし喜びあふるる秋の夕暮れ　鎌倉市　土矢真知子

芋煮会地元の婦人は薄味で会津のリーダー幾度も手直し　鴻巣市　福島　勉

予約したままになってるシュトーレン病室の窓に葉は色づいて　横浜市　田代　春香

あはれあはれ芯の残りてしまひたり八合炊きし松茸の飯　長野市　原田　浩生

「缶コーヒー選んでくれ」と頼まれるホームに光浴びる自販機　山陽小野田市　磯谷　祐三

仏像に生まれ変わりて生きる木と立ちつくすまま終わる木とあり　横浜市　杉山　太郎

俳　万智　選

夕食もとらず実家を後にする息子のように秋が過ぎ去る　松原市　たろりずむ

【評】やっと来たと思ったら、顔だけ見せてそそくさと帰ってしまう息子。あるあると思い浮かべたところで、それが比喩だとわかる。この語順が、秋の擬人化に説得力を持たせる。

今年の秋は、まさにこうだった。

「東京で見る雪はこれが最後ね」といつかつぶやく温暖化にて　東京都　武藤　義哉

【評】ヒット曲「なごり雪」の一節を引きながら、思いがけない展開だ。本歌取りの変種のような技巧で、ドキッとさせられる。

怖がりのこぐまみたいに二人ともコートが同じと気づかないふり　東京都　無地ムジカ

【評】「おそろいだね！」と軽く笑えればよかったのだろうが。言いそびれた後の気まずさや探る感じが、上の句の比喩で伝わってくる。

足早に我を抜いてく少年の何か応援したくなる朝　東京都　森　昭大

傘立てに押し込められた傘のよう隣に誰がいてもさみしい　東京都　雲居ハルカ

採血の針刺さるとき目をそらす今日のわたしも死にたいくせに　春日井市　月夜の雨

わたしには本番でしたあなたには予行演習だったのでしょう　大阪市　畑　依裕

東京に来てから居心地良さそうなスーツケースがすいすい進む　大和郡山市　大津　穂波

ひと時の秋を薫りて散る桂花その花言葉「初恋」と知る　越谷市　藤谷　明

晩秋の気分振り切るごと君は抱き来るなりポインセチアを　柏市　塩田　淳文

黒瀬　珂瀾　選

おのおのの法被に残るたたみじわ祭りの汗に程なく消える　鴨川市　春木　敦子

【評】秋祭りが始まる。喧嘩が広まるにつれてみんなの法被に汗がにじみだす。細部に注目することで祭の躍動を表現した、斬新な一首です。楽しいお祭りだったのでしょうね。

クリップかホッチキスかで迷ってる五枚になりし内部告発書　泉佐野市　米谷　茂

【評】内部告発の重要さが注目される現代。しかし、告発という果敢な行動に比べ、気にするのは実に些細なこと。それだけ、告発者本人の心に、いまだ逡巡があるのかも。

定められし季節の位置を守らんと芒は白きかがやきに靡く　久喜市　深沢ふさ江

【評】温暖化などの影響か年々、季節がずれてゆくのを感じます。それでも植物たちは本来の成長の姿を守ろうとする。自然の力。

よくもまあ長き酷暑を耐へにけり黄いろく光る庭の石蕗　京都市　五十嵐幸助

つけたしの澄んだ香りをまとわせて僕の檸檬は爆弾じゃない　川崎市　織原　禾

退院の喜び伝える携帯の奥から聞こえる白鳥の声　新発田市　本田　政嗣

永遠に故郷を捨てる旅も良しエウロパにもし海があるなら　小諸市　藤　雪陽

夕焼けに熔け落ちてゆく跨線橋終わりの時は私にもある　所沢市　里見　脩一

「まだパパとあそびたかった」とごねられてあくびをしつつプリキュアになる　広島市　熊谷　純

ドローンで許す心と愛運び空から撒いていくさ止めてよ　奈良県　山本　悦子

◇投稿規定◇　はがき1枚に未発表の1作品。住所、氏名（ふりがな）、電話番号を明記。◇他の媒体、選者への二重投稿は厳禁です。選者が添削することもあります。〒103・8601、にほんばし蔵前郵便局留、読売歌(俳)壇、○○先生(希望選者名)係または読売新聞オンラインから　◇毎週月曜日に掲載　右の影絵はきんめだいのひらき